ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.									

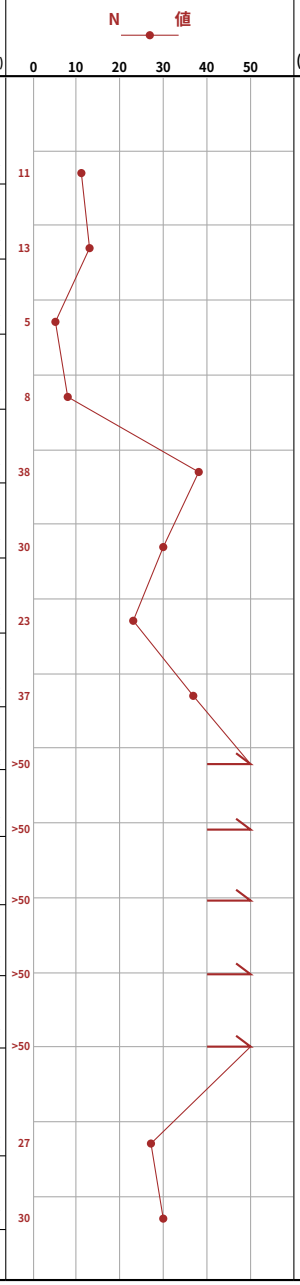
シートNO.

ボーリング名	No.47-2	調査位置						北　緯	36 ° 44 ' 38.0000 "
発注機関	栃木県日光土木事務所			調査期間	2007-09-05 ～ 2007-09-10			東　経	139 ° 31 ' 03.0000 "
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	959.66 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南 .00 °	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 20.00 °	使用機種	試錐機 / ハンマー落下用具
総掘進長	15.45 m								エンジン / ポンプ

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
	959.16	0.50	0.50		表土 (SF)	暗黒褐			[0.01]上部は草根が混入する。 [0.27]礫混じり土砂の表土。		
1 2 3 4	954.66	4.50	5.00		盛土(礫混り砂) (BS)	暗灰～暗赤灰	緩い		[0.8]全体に粗粒の火山砂が主体である。 [1.7]全体に径100mm前後の溶岩礫が混入する。 [2.6]GL-1.8mにはコア長15cm、GL-4.5～5.0m間にはコア長35cmの玉石が混入する。 [3.8]含水量は中程度。 [4.4]締まり度はあまり良くない。		
5 6 7 8	950.86	3.80	8.80		礫混り粗砂 (CS-G)	暗灰	中ぐらい		[5.28]火山砕屑物。全体に中粒～粗粒の火山砂が主体。 [6.17]径10～50mmの溶岩礫が混入。 [6.75]GL-6.6～7.0m間は礫が主体である。 [7.63]含水量は中程度。 [8.22]孔壁の崩壊が認められる。		
9 10 11 12 13 14	945.56	5.30	14.10		玉石混り砂礫 (GS-B)	暗赤灰	非常に密		[9.23]全体に玉石の混入が多く、棒状コアで採取される部分が多い。 [10.27]採取される玉石のコア長は10～20cm程度である。 [11.3]局部的に層厚10～35cmの河川性のシルト質の微細砂層が介在する。 [12.33]玉石は若干発泡性のある安山岩質溶岩なものが多い。 [13.37]下部、色調が暗灰色に変わる。		
15	944.21	1.35	15.45		シルト質細砂 (FSM)	淡褐			[14.14]火山砕屑物中の河川性堆積物。上部はシルト質微細砂状。 [14.78]下部は細砂状を呈す。		

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値	測定月日
1.15	4	4	3	11／30	11	
1.45						
2.15	5	5	3	13／30	13	
2.45						
3.15	1	2	2	5／30	5	09/05
3.45						
4.15	4	2	2	8／30	8	
4.45						
5.15	11	12	15	38／30	38	
5.45						
6.15	10	9	11	30／30	30	
6.45						
7.15	10	8	5	23／30	23	09/06
7.45						
8.15	5	6	26	37／30	37	
8.45						09/08
9.15	30	20／4		50／14	>50	
9.29						
10.00	32	18／8		50／18	>50	
10.18						
11.00	50／9			50／9	>50	
11.09						
12.00	50／5			50／5	>50	09/09
12.05						
13.00	50／2			50／2	>50	
13.02						
14.15	8	9	10	27／30	27	
14.45						
15.15	9	10	11	30／30	30	09/10
15.45						



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日